これは人間には造れませんよね。そういうものが、私達には備わっているんです。
備わっているということは、やはり自分が、いろんな事を見聞きする事が必要だから、そうなるのであって、自分に不必要だと思っているのは、自分のエゴなんですね。自分に都合の良い事だけを考えると、不必要なものが沢山起きてくるんですね。
私は高橋先生の話の中から、そういう事を、まぁ、牛の如く一つ〳〵吸収していったんですね。偉い人達はみんなどん〳〵分かるけれども、私は分からない。もうとにかく、一つ〳〵確実に掴んでいった。

八、捨てられる子供達

ところが、お年寄りの施設に行っていた時に、今度は親の無い子供がいるということを聞いた。それで今度は、そういう処に行き始めた。
未だに、そういう施設の人達とは交流があるんですけれども、時間が無いので、

しょっちゅう行けなくなったんですけどもね。よく、子供が書いた手紙が来たり、いろんな交流があるんですね。
そうすると、そういうもの一つにしても、私自身、全然知らなかった事ですね。
私が小学校の頃に、親の無い子供を集めて世話をする施設があって、そこの子供は学用品が全部無料だった。そういうものは記憶に残っている訳ですけれども、昔からそういう施設みたいなものはあったんですね。
しかし、私は大人になってからも、そんな人達の事を考えた事も無かったんですね。
ところが、両親がいても捨てられた子供、生まれて直ぐ、もう胎盤が付いたままで捨てられた子供もいる訳ですよ。
そういう子供でも、実は育っていく訳ですね。また育てる人がいるんですねぇ……。世の中というのはいろ〳〵ですね。
そして、ある程度大きくなって、その施設から巣立って行った子が、正月になり、お盆になった時に、「そこを通ったから」と言って、家に帰って来る気持ちで、みんな施設に帰って来る訳ですね……。

中には、ぐれていく人もいるかもしれないけれども、やっぱり一所懸命生きている人もいるんですよ。――そういう事や、いろんな事が分かってきた訳です。

こういう交流を始めてから一年半位が経ったんですが、反省も毎日、一所懸命に続けていた訳です。

まぁ、最初の頃は、一〇分か一五分位すると、もう出来なくなるんですよ。一〇分位したら、もう一時間以上、反省をしたつもりで眼を開いてみたら、「なんだ、一〇分か」なんて、そういう事を繰り返していたんですね。

ところが、どんどん……やっていったら、やっぱりこれも訓練ですね、自分を培う――そういうものが無かったら続かないんですね。これは何でもそうですよね。

私は諦めずに、自分が本当に出来る処までやっていった訳です。そうしたら、何時の間にか、一時間半位、本当にアッという間に過ぎるようになってきたんですね。

そういう時には、本当に真剣に――真剣にやらないって事はないですけどもね――その時にやっていた事が、物凄く身に付いていったんですね。

ところが、人間というものは、そういうものを続けていくうちに、一寸休憩をしてしまう。これは、高橋先生の話の中で、中国の諺ですが、

「九仞の功を一簣に虧く」

という話があるんですね。先生が、

「人生というものは、山登りみたいなものですよ。

一所懸命に努力をして、努力をして、ここまで登って来た。

しかし、ここで怠けてしまったら、頂上には辿り着けずに、一遍に下へ転がって行ってしまいますよ」

と、そういう事を仰った事があるんです。先ずその通りなんですね。

自分がこういうふうに反省するにしても、一寸休んだりしたら、もう元に戻るのに大変な苦労をしなければならなくなる。これは何処までいっても、やはり毎日の努力というものが付きまとってきますね。人生というのは、みんなそうだと思いますよ。

こうして、昭和四六年の年は過ぎていったんですね。

――次回に続く

次回『九、世にも不思議な現象』の更新予定は、二月下旬頃です。お楽しみに。